

3巡目

四国あるき 遍路の旅

環20) 四国一番の難所横峰寺へのみち 9.5km

里程表

7.3km 1.6km 0.6km

第50番 横峰寺

環21) 61番 圓福寺へのみち 11.6km

里程表

0.9km 1.0km 1.5km 1.4km 2.3km 3.5km

令和5年2月17日～2月19日
臨濟宗妙心寺派 圓福寺

Title : 石鎚のふもとで足慣らし

Date : 2023/02/17



札所以外で集合写真を撮ることも珍しい気がいたしました。

それにしても、住職親子の雲水姿がなかったら、コロナ禍にも関わらずハイキングに出かけたグループとでもいった感じでしょうか？

こんなマスク姿で四国遍路をするのが、いつまで続くやら、そろそろおしまいにしてもらいたいものです。



すでになじみ感のある松山空港、松山駅と、ここまでは難なくたどり着くのですが、ここから今回メインの横峯寺の麓までは、今治周りの電車で行くか、いよてつの新居浜特急バスを利用して東に直進するか迷うところです。

今回は、札所至近にバス停があるという安易な理由から、特急バスを利用しました。なにしろ二日目に難所横峰寺を控えていることを考え、初日は体力温存を優先したこともあります。

さてバスを降りると12時近く、昼食をどうしようか調べると、これまたバス停近くにおあつらえ向きの讃岐うどんの店を見つけました。伊予の国も終盤に差し掛かり、讃岐の国が近くなったことを実感させてくれました。「こがね製麺所」で讃岐うどんを食べて、二日目の難所に向けて、足慣らしとでもいう平地の歩き遍路が始まりました。

63番吉祥寺

さすがセルフうどん、早々に食べ終えて、予定より30分も早く63番札所に到着。吉祥寺の本堂は修復工事のため、本尊様は大師堂に

安置してあるとのことで、お参りも一か所で済んでしまい、今はやりの時短？参拝となり、予定より45分早くお寺を出発しました。

Title : 64番前神社

Date : 2023/02/17

どっちがお寺でしょうか？



上の写真と右の写真を見て、さてどっちがお寺でしょうか？と思うようなたたずまいですが、上が前神寺の本堂で、右が石鎚神社の山門です。

前神寺は修験道の総本山でもあり、独特な雰囲気を出しているの、札所らしさをあまり感じない建物の気がします。

一方の石鎚神社の山門は、いかにもお寺の山門のような豪壮な感じ。それもそのはず、明治の廃仏毀釈前はこちらが前神寺だったそうで、おそらく仁王像が祀られていたのだと思います。

歴史を大切にする神道ながら、かつて前神寺だったことに一言も触れない案内板に違和感を感じながらお参りをさせていただきました。



旅の記録

期日	曜日	コ	ー	ス	予	定	食事・宿泊				
1	2月17日	金	7:15発 羽田空港	ANA583	08:45着 松山空港	8:55発 一空港リムジン	09:10着 松山駅前	【歩いた距離】約7.2km			
			10:15発 松山駅前	伊予鉄バス新居浜特急	11:52着 氷見バス停	一徒歩 約0.3km	12:00着 一徒歩 約3.2km	12:30発 一徒歩 約0.4km	屋食は、「こがね製麺所」で各自。いよいよ讃岐うどんです。		
			12:40着		13:00発		13:30着	14:15発			
			14:20着		14:45発		15:00着	15:10発			
2	2月18日	土	14:20着		14:45発		15:00着				
			15:20着	伊予鉄バス	16:00着	一徒歩 1.4km	16:00着	湯の里小町温泉しこくや	宿泊「湯の里小町温泉しこくや」愛媛県西条市小松町明穂甲47 0898-76-3388		
			6:30~ 宿にて朝食	7:30発 宿	一徒歩 約4.5km	8:30着	途中のへんろ小屋	8:45発 一徒歩 約3.0km	【歩いた距離】約20.7km 屋食は、登り口のコンビニで各自購入		
			9:30着	湯浪休憩所	9:45発	一徒歩 約1.8km	10:45着	11:35全員到着	12:20発		
3	2月19日	日	12:15着	一徒歩 約5.3km	17:30着	伊予小松駅	18:02発	18:08着	18:25発	夕食は18:00~「土筆」です。宿泊「ホテルグランフォーレ」四国中央市三島朝日1-1-30 0896-23-3355	
			12:15着	一徒歩 約1.8km	17:30着	伊予小松駅	18:02発	JR予讃線	18:08着	18:25発	
			15:58着	高知駅バスターミナル	16:10発	一空港リムジン	16:40着	高知竜馬空港	18:20発	ANA570	
			19:35着	羽田到着後流れ解散							

【歩く距離】約40.5km

Title : 64番前神寺

Date : 2023/02/17



前神寺の門にたどり着きましたが、修験道の総本山という割には簡素な門です。前頁写真の石鎚神社の門が、間違いなく前神寺の山門だったということが強調されるようでした。右下の石鎚神社の参道を見ても、いかにも古刹に向かう石段といった感じがしましたし、神社本殿への石段はさらに荘厳な本堂が待ち構えているような雰囲気でした。

石鎚神社をお参りして右側に目を移すと、眼下に西条の街、その先に瀬戸内の海を臨むことができました。【下左の写真】その右には新居浜の市街地まで俯瞰することができました。



前神寺大師堂前にて

前神寺境内の樹木の茂る森厳な雰囲気の中でお参りした後、石鎚神社本殿からの開放的な景色を見ると、かつてはこの開放的な景色が前神寺本堂からのものだったとは想像できず、廃仏毀釈によって前神寺はかえって厳かな空気を手に入れたのかもしれない。廃仏毀釈にも功罪があることに気づかされたのでした。



石鎚神社への石段

石鎚神社の参道の石段を登りながら、市原別院の作りかけの参道のことを頭をよぎります。そして、どんな施工方法で作ったのか気になって仕方ありませんでした。自分だったらモルタル仕上げにはしないとか、ここは石を張った方がいいとか、お参りには似つかわしくない思いがこみ上げてくるのでした。

Title : 60番横峰寺

Date : 2023/02/18



あちこちに設置してある、四国のみち案内板

横峰寺とイチゴの思い出

一人初遍路の時、横峰寺への遍路道の途中で、大きなイチゴのパックを二つもお接待いただきました。あいにくの土砂降りの日で、難所を目前にして手荷物など極力ない方がいいに決まっています。とはいえ今のように休憩所が整っているわけでもなく、雨をしのいでおやつタイムともいかず、大きなイチゴをほおぼりながら歩いたのでした。山に入ると、遍路道は濁流が流れ、ようやくの思いで横峰寺にたどり着いたのでした。



一日目は、横峰寺を控えての足慣らしといった感じで、平地を7kmほど歩いただけでしたが、二日目はいよいよ今回の目玉コースです。

宿泊した「しこくや」の温泉で英気を養ったのに、2時間も緩やかな舗装道路です。一体いつになったら、難所にふさわしい山道になるのか、舗装道路が続けば続くほど戦々恐々となったのではないのでしょうか。



いよいよ横峰寺への山道入り口にたどり着きました。「湯浪休憩所」です。駐車場には何台も車が止まっていました。どうやら、ここから横峰寺へ行く登山客の車だったようです。

登り口に、蛇口まで付けられた湧き水が整備してあり、どなたかのように水を買って忘れたもいいようになっていました。ありがたい！



Title : いざ、伊予の難所へ

Date : 2023/02/18



いよいよ、伊予の難所が始まりました。

湯浪の休憩所から距離にすれば3.5kmですが、標高745mまでの横峰寺まで一気に登ります。湯浪の標高が300mですから、その平均傾斜角度は12.7パーセントだそうです。雪が積もったら自動車が登れなくなるので、雪国の道路では考えられない角度です。急坂を登坂する能力は人間の方が優れているということになりますね。



札所と同行の仲間と

四国遍路をしてなにか変わりましたか？という質問をよく耳にするのではないのでしょうか。あなたは一生でなにを得ましたか？という質問同様、答えるのは難しいと思います。

しかし、山中の険しい遍路道を歩いて感じるの、まずは目の前の札所までたどり着こうとする身近な目標に向かって、一步一步足を進めるしかないこと。そして、一人だとあきらめてしまいそうなときも、一緒に歩く仲間がいるということが無言の励ましになることを知ります。

人生も一日一日、歩きも一步一步、そして、一人で生きているのではないこと。

登り始めの石柱に「国指定史跡 伊予遍路道」と刻まれていました。私たちは国指定史跡を歩いていきました。私達は国指定史跡を歩いていきました。私達は国指定史跡を歩いていきました。

ということは、福澤さんは史跡に腰を下ろして水を飲んでいました。道しるべの距離表示が励みにもなり、まだかあとという落胆にもなり……。





ようやくの横峰寺

最後の階段とは知らず、重い足をなんとか持ち上げながら登って見上げると、横峰寺の山門でした。山門に立つといきなり冷気に包まれます。急坂をあえぎあえぎ登って汗だくになった身に、最初は心地よいのですが、後続組を待っている間に寒気に襲われてきました。それもそのはず、境内の建物の前には屋根から落ちた雪が小山になって残っていました。

お参りを終えて、境内の休憩所で昼食をいただき、遍路ころがしといわれる下り坂に向かいました。



長い遍路ころがし

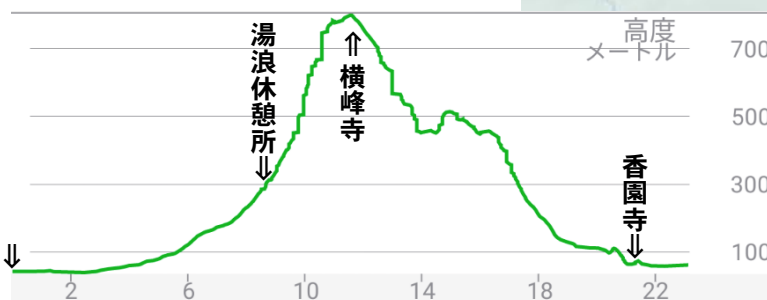
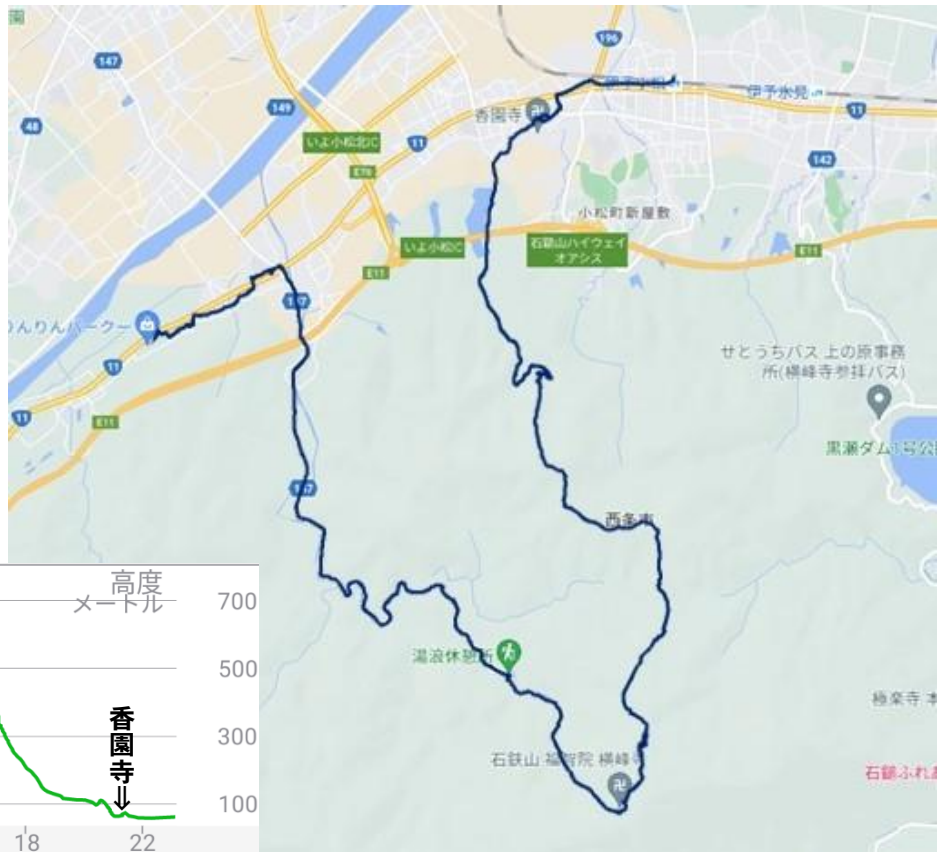
下りは楽だろうとたかをくくることなかれ！実は、あの苦しい登りの約2倍の長さがある遍路ころがしという下り坂なのです。雨が降っていなかったのは幸いです。雨だったらと思うと、ぞっとするような下り坂でした。



横峰寺から悪路になった舗装道路を下ること1.2km。遍路ころがしの入り口は、舗装道路わきに忽然と現れます。ご親切に、香園寺まで8.4kmと石柱に刻んであります。

舗装道路から、底の見えない緑の谷底めがけて自らの足で沈んでいくような感じです。1巡目も2巡目も、飛ぶように下ることができたのに、もうそんなことはできないと感じながら慎重に降りざるを得なくなったわが身を痛感させられました。

1巡目2巡目で、今回の私の年齢ぐらいだった参加者の気持ちがよくわかるようになりました。景色が年齢によって見え方が違うように、歩き方も年齢によって自ずと違ってくるので、歩き遍路の感じ方も違ってきて、それこそが何回も歩くことの意義なのだと思います。



3日目、いよいよ雨の降りだし

ホテルを出るときには雨が降っていませんでしたが、天気予報は雨。その予報通り、戸川公園に着くころからぽつりぽつりと降り出しました。おあつらえ向きに、戸川公園の東屋で雨支度をする事ができて何よりでした。

その点、雲水の雨支度は簡単なもので、雨合羽を首から下に、荷物もろともかぶるだけなので、歩きながらでも一瞬にして雨支度ができるようになっています。雨支度に時間を取られないための先人たちの知恵なのかもしれません。



【左】戸川公園の東屋で雨支度。合羽の上下、リュックにも合羽とみなさん大変です。

【右】どうみても四国遍路の一行には見えません。雨の日に辛いのは、腰を下ろして休めないことで、途中の休憩も立ったままです。休憩ではなく、たたずんでいるといった方が正解？

三角寺到着

途中、集落を抜ける急坂があったものの、高台に出たら舗装道路をだらだら歩く感じでした。きつかったのは山門への見上げる石段でした。しかも雨に濡れた滑りそうな石の階段。一段ごとにも高さもあり、わずかな長さながら、合羽を着ていることもあってすぐにあえいでしまいました。





三角寺からの下り二択

今回の旅程を計画するにあたって迷うところが、インターバス停に向かう三角寺からの下りルートでした。

一つは三角寺からインターにまっすぐ下る急坂ルート。もう一つは、番外札所椿堂まで出てゆったり下るルートの2つでした。急坂ルートは2巡目の時に歩いたルートで、下り終えると腿が筋肉痛を起こすほどでした。しかも、今回の雨では転倒者続出の恐れがあり、安全第一で回避いたしました。

その代わりに、歩く距離が増えてしましますが、椿堂に向かうのが次の雲辺寺に向か



う本来の遍路道です。かつては椿堂のある集落にできれば路線バスに乗れたのですが、どうやら廃線になったようで、昔のバス通りを下ってインターバス停まで行くことにしたのでした。

椿堂に到着して、お参りを終えて境内あちこちに腰を下ろして、寒さもおかずにして昼ごはんとなりました。



【上・左とも】三角寺から椿堂に向かう一行。やはり、歩き遍路には到底見えません。
【右】ようやく椿堂に到着。

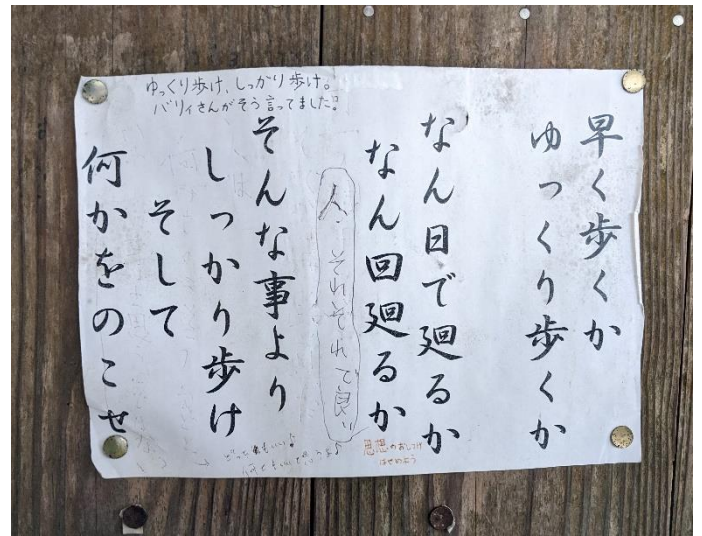


タクシー分乗の緊急措置

椿堂からバス通りを下ってインターバス停に向かう予定でしたが、時間的に厳しいことや、雨も考慮して、急遽タクシー分乗でインターバス停に向かうことにしました。

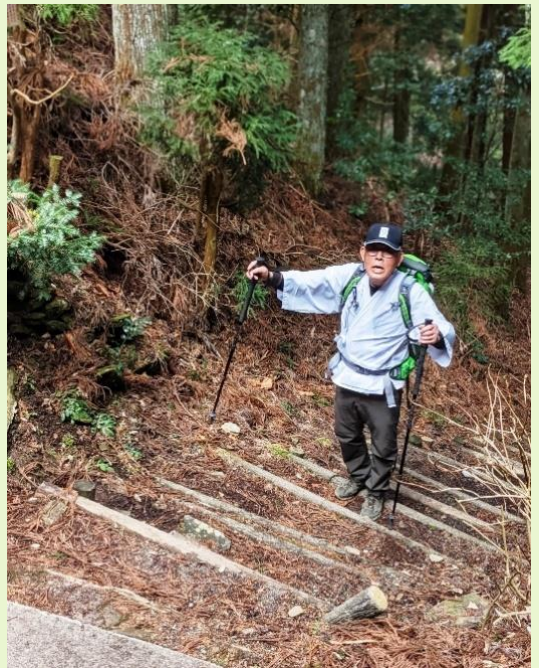
歩きで行こうと計画したところですが、車にすればあっという間に到着してしまい、寒いバス停で待っていただくことになりましたが、近くのジャスコに行かれたりして寒さをしのいでいただき、ご協力ありがとうございました。

ようやくやってきた予定の高速バスに乗って、高知から帰路に就くことができました。



途中で見かけた張り紙

第10回の遍路点描！



あとがき

雨の日は合羽と決まっている雲水の装束ですが、合羽をかぶるときには大きな衣の袖に玉だすきというもので、袖をまとめることになっています。同時に足に付けている脚絆は、外すことになっています。

この脚絆は、現代でいうサポーターの役目をしていきますから、足元の保護と同時に疲れを軽減させてくれる働きをしてくれます。雨で脚絆をつけずに1日歩くと、疲れ具合が違ってきます。

椿堂で雨が上がってきたので、脚絆をつけている写真を西川さんが撮ってくれましたので、少しだけ脚絆のお話をさせていただきました。



圓福寺 四国あるき遍路の旅
3 巡目第10回写真集
令和5年02月17日～02月19日

写真：西川 浩平
小林 照彦
宮田 宗耕
宮田 宗格
文：宮田 宗格
編集：宮田 宗格
発行：臨濟宗妙心寺派 圓福寺